

第23回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会

決勝トーナメント1回戦（8月13日）

天候

晴

風

弱

ピッチの状態

良

気温

30.2

湿度

70%

コンサドーレ札幌ユースU-15

2

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}$$

3

ガンバ大阪

10分 神田

29分 神田

24分 小谷

56分 西田

72分 小谷

システム

4-4-2

システム

4-4-2

【コンサドーレ】 Gk伊藤 DF坂本・松浦・永井・和田 MF神田・堀米・高木・小山内 FW近藤・下田
交代 40分 中川（小山内） 74分 荒野（和田） 81分 前（下田）

今大会でいちばん暑い日になった。気温30.4度、湿度70%。コンサドーレには不利な環境で決勝トーナメント1回戦、関西の雄ガンバ大阪の一戦は始まった。立ち上がり両チームは互いに出方を伺う。5分を過ぎるとガンバが強引なシュートで攻撃に出てくる。一方のコンサドーレが始めて見せた攻撃は、自陣右奥深くでインターセプト、堀米 神田 近藤へとつなぎ、コーナーキックを得る。ガンバディフェンスが一瞬マークの甘さを見てショートコーナーペナルティーエリア右外でボールを受けた神田は、中ヘドリブルと見せかけシュートフェイントで切り返し。そのまま左足で強烈なシュート。ボールはガンバGK田尻の頭上を超え、カーブを描き左サイドネットへ突き刺さった。歓喜のコンサドーレ。ベンチから「夢実！」の絶叫が聞こえた。まだゲームは始まったばかりでガンバに焦りはない。油断してはいけないコンサドーレ、特に左サイド、ガンバ14番島田のドリブル突破には気をつけたい。20分に飲水タイムが入る。一息ついた後が危険だと思ったが、再開した1分後、右サイドをワンツーで突破されガンバ9番小谷にしっかり合わされ、同点とされる。気持ちを入れ替え、仕切り直しのコンサドーレは、27分調子が良い神田が2点目を入れる。左サイドを神田、下田でショートパスを数回つなぎ、フィニッシュは右足アウトサイドで放った。ボールは芝の上をすべるようにGKとニアポストの狭い間を抜けて行った。「すげえなあいつ！」とコンサドーレベンチから感嘆の声が出る。30分には近藤のシュートがバーに当たり惜しいチャンスを逃し、前半コンサドーレ2-1とリードして終了した。決勝トーナメントからは80分となる。予選リーグより10分長くなった分、後半30分を過ぎると、じわじわとボディブローのように効いてくる。とは言ってもガンバも同じ、コンサドーレ走り貫かないと勝利の女神が微笑んでくれない。頑張れコンサドーレ。後半は定石となった中川が左サイドに入る。その中川がコンサドーレ後半最初のシュートを打つが、GKの正面。アメラグのような攻・守の権利がはっきりしているルールが、サッカーにもあるような攻防が続く。ボールの保持率はガンバが6:4で上回る。57分ついにガンバお意地が同点弾を生み出す。このゲーム2回目の振り出しだが、中川がドリブルでドリブルで抜け出す。高木が駆け上がりチャンスに絡むが、ガンバの硬いディフェンスがシュートを打たせない。後半の飲水タイムが終わり、両チーム共に疲れが見え始める。25分神田28分下田がシュートを打つがGKの攻守に勝ち越し点を奪うことができない。残り10分を切った。この暑さで延長戦を戦うのは不利だ。80分で決着をつけたいコンサドーレ。しかし72分勝ち越したのはガンバ。ガンバ自陣中央から、コンサドーレディフェンス裏へパスが通る。9番小谷がタイミング良く抜け出し、前へ出ていたGK伊藤の遙か上空を通り、ボールは無人のコンサドーレゴールへ入って行った。逆転された直後、グループリーグ鹿島アントラーズ戦で負傷した荒野を入れ巻き返しを図る。小気味良いパスワークで、ガンバゴールに向かうが、フィニッシュできない。ロスタイムは3分ある。ガンバは無理につなごうとはせず超ロングボールで時間を使う。コンサドーレ最後まで諦めずに戦う。このコーナーキックワンプレーでホイッスルの時間。奇跡を起こせコンサドーレの願いも、ガンバディフェンスのヘディングでタイムアップ。最後に、4試合すべてを見させてもらったが、ゲーム内容はすばらしかった。大会関係者の評価も高く、コンサドーレ良いねとたくさんの方が私に言ってくれ、素直にうれしく感じました。労をねぎらった後、名塚監督から聞いた、「一つ足りないですね」は惜敗の悔しさを一言で表現した言葉だった。

戦評 加藤 孝俊